

第2章

現況調査編

1

大分市の概況

(1) 位置

大分市は、九州の東端、大分県の扇状領域の要に位置し、南は臼杵市及び豊後大野市、西は別府市、由布市及び竹田市に接しています。

市域は、東西50.8km、南北24.4kmにわたり、市域面積は、502.39km²（2018年（平成30年）10月1日現在）となっています。

大分市の位置



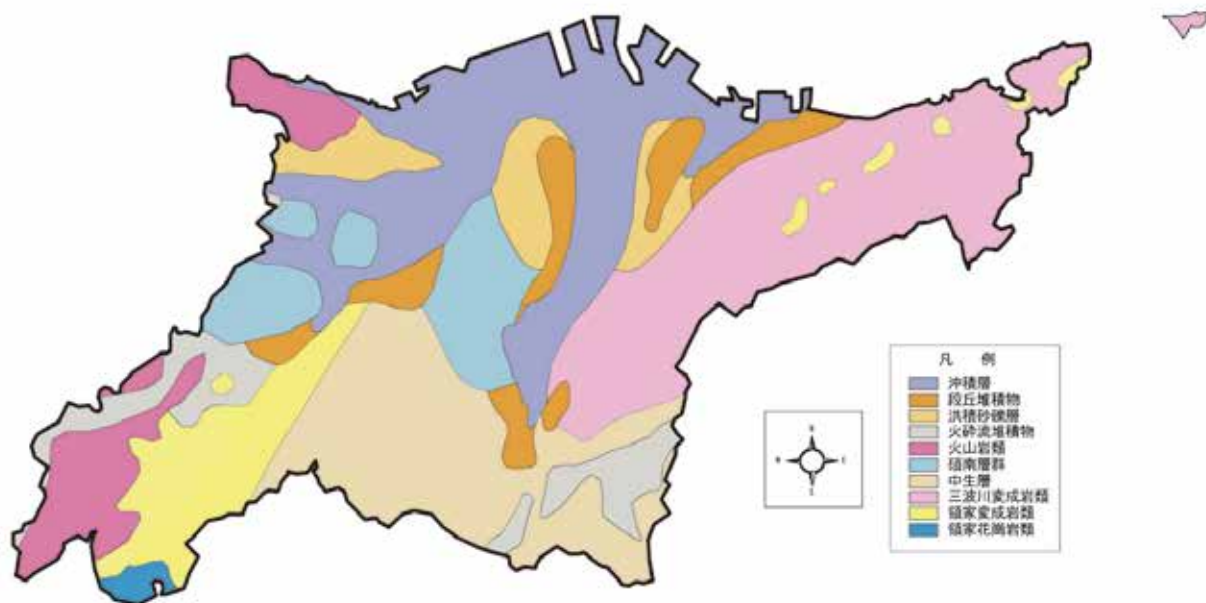
(2) 地形と地質

大分市は、北部が別府湾に面するとともに、西部には高崎山、東部には^{もみのぎやま}縦木山（佐賀関地域）、南部には^{よろいがだけ}鎧ヶ岳（野津原地域）などの山々が連なっています。また、これらの山々を縫うように県下の二大河川である大野川、大分川が南北に貫流しながら別府湾に注いでいます。

海岸部においては、北部沿岸海域は水深が深く、東部沿岸は豊予海峡に面したリアス式海岸で、天然の良港となっています。

地質については日本の西南部を縦断する中央構造線から延びる2本の構造線が通っており、多様な岩石や地層が分布しています。市域の表層地質の分布についてみると、佐賀関山地の変成岩類、大野山地の領家変成岩類、領家花崗岩類、高崎山山地一帯の火山岩類に分けられ、これらの縁辺に碩南層群や洪積砂礫層、河川沿いの段丘堆積物が分布する構成となっています。

大分市の地質図(表層)



(資料：大分市地域防災計画(資料編)：2018年(平成30年)3月を基に作成)

(3)水系

大分市内の幹線河川は、大分川、大野川の一級河川をはじめ、祓川、住吉川、丹生川などの二級河川があり、それぞれ別府湾に注いでいます。



(4) 気象とヒートアイランド

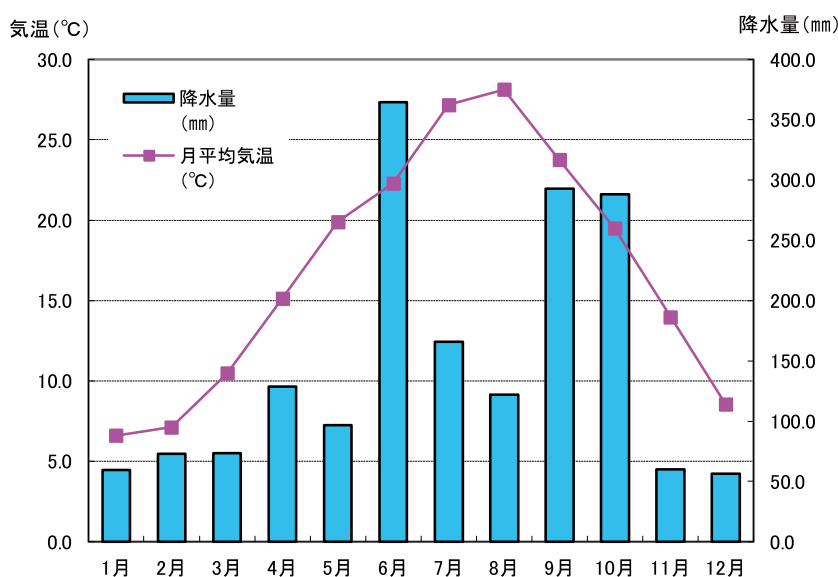
1) 気象

大分市の大部分は、年間を通じて降水量の少ない「瀬戸内海型気候区」に属していますが、野津原地区など南西部の一部山間地では、降水量の多い「九州山地型気候区」に属しています。

大分市の2013年（平成25年）から2017年（平成29年）における平均気温は、県内では比較的気温が高く16.9度であり、また、年間降水量は1,781.0mmです。雨量は、梅雨や台風の時期に集中し、月平均気温が最も高い8月の時期に少ないのが特徴です。

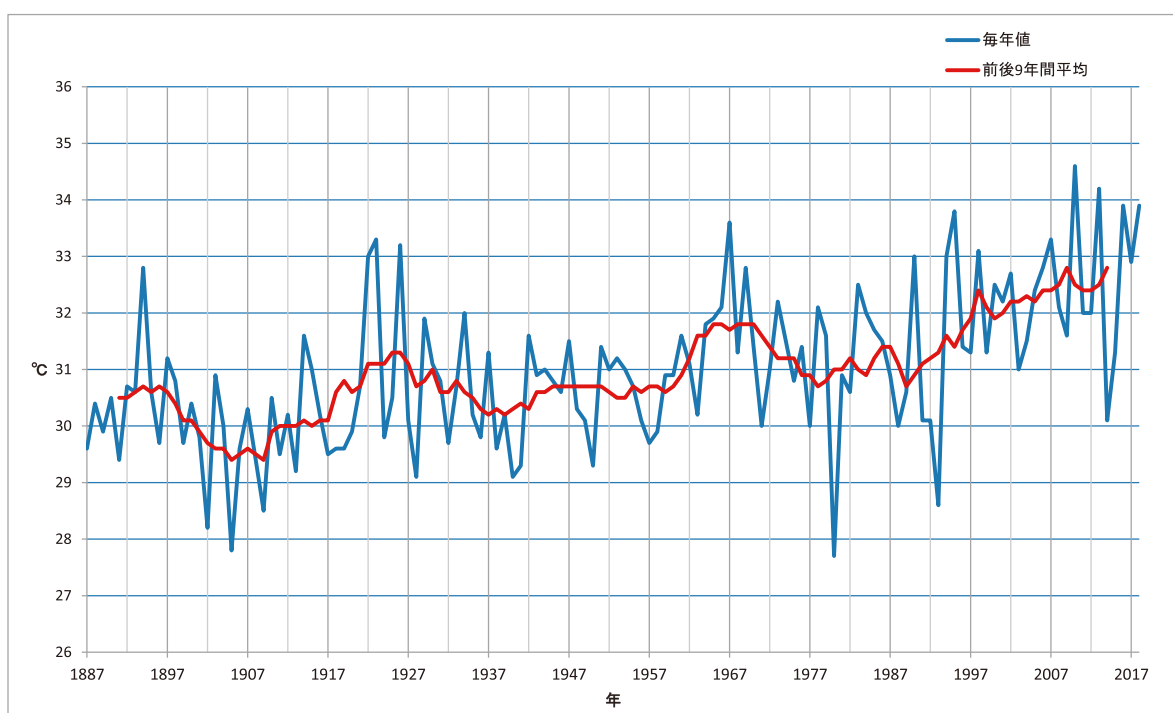
日最高気温8月平均値は、2018年（平成30年）で33.9度であり、気象庁の観測記録をみると、近年、上昇傾向にあります。

気温と降水量



(資料：気象庁データ（5年間（2013年～2017年）平均）)

日最高気温8月平均値(°C) (大分市)



(資料：気象庁)

2) ヒートアイランド現象

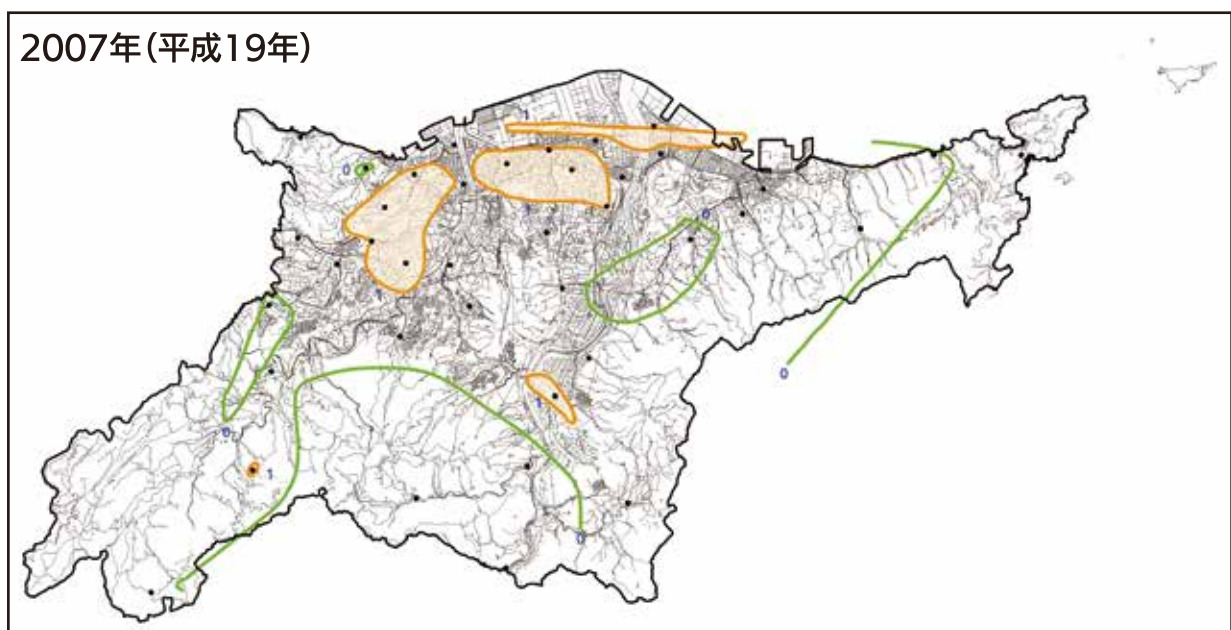
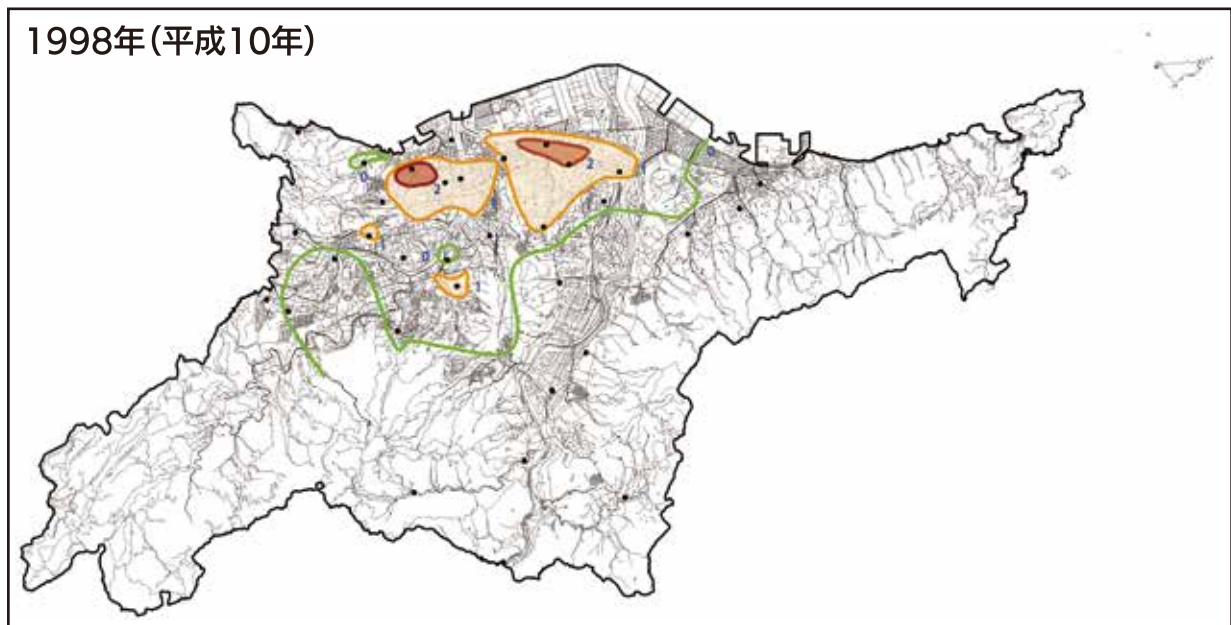
大分市全域にわたる気温の分布を把握するため、2016年（平成28年）8月にヒートアイランド調査を行いました。調査は小学校や公共公益施設など市内41箇所（内常時測定局3局）で気温を測りました。

その結果、畑中公民館及び春日町小学校、東大分小学校～桃園小学校～鶴崎小学校付近を中心とした市街地部に高温域が見られ、ヒートアイランド現象が生じていることがうかがえました。

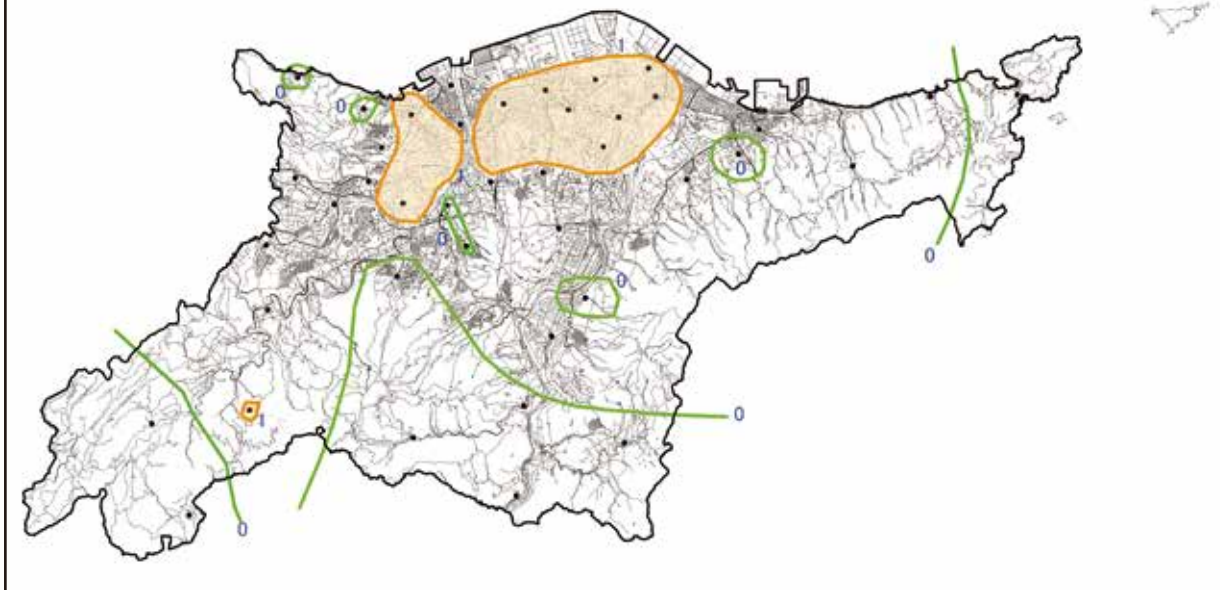
ヒートアイランド強度（郊外夜間平均気温との差）の最大値は、1998年（平成10年）が2.9℃、2007年（平成19年）が1.9℃、2016年（平成28年）が1.8℃です。2016年（平成28年）のヒートアイランド強度は1998年（平成10年）より小さくなりましたが、ヒートアイランド現象が継続して生じています。また、温度の高い範囲は、1998年（平成10年）以降、南側に拡大している傾向が見られます。

ヒートアイランド現象の主な原因には、地表面被覆の人工化が挙げられており、植物の量を増やすことなどで一定の効果が得られるものと考えられます。

夜間のヒートアイランド強度の分布



2016年(平成28年)

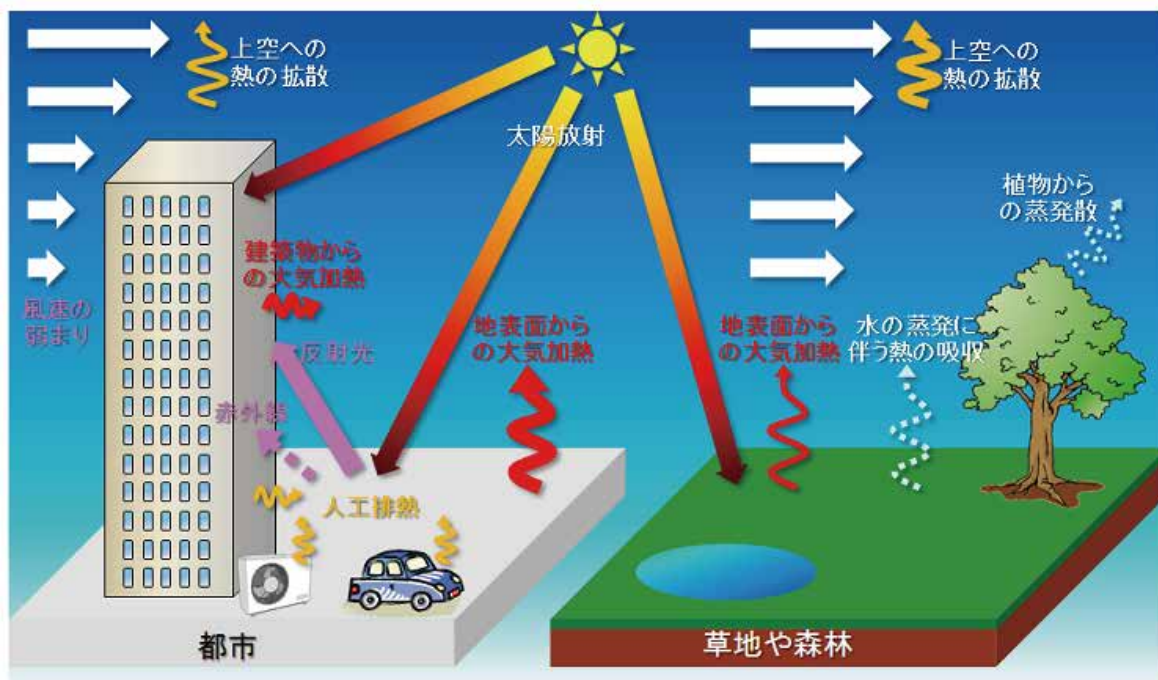


- 凡例
- …郊外夜間平均気温の等温線
 - …郊外夜間平均気温より1℃高い等温線
 - …郊外夜間平均気温より2℃高い等温線

○ヒートアイランド現象とは

ヒートアイランド現象とは、都市の気温が周囲よりも高くなる現象のことです。等温線が島状になることから、こう呼ばれています。ヒートアイランド現象は、地表面の被覆域の人工化（建物、道路等）、緑の減少や、多様な産業活動や社会活動に伴う熱の排出などが原因となっています。

ヒートアイランド現象の概念図



(気象庁HP)

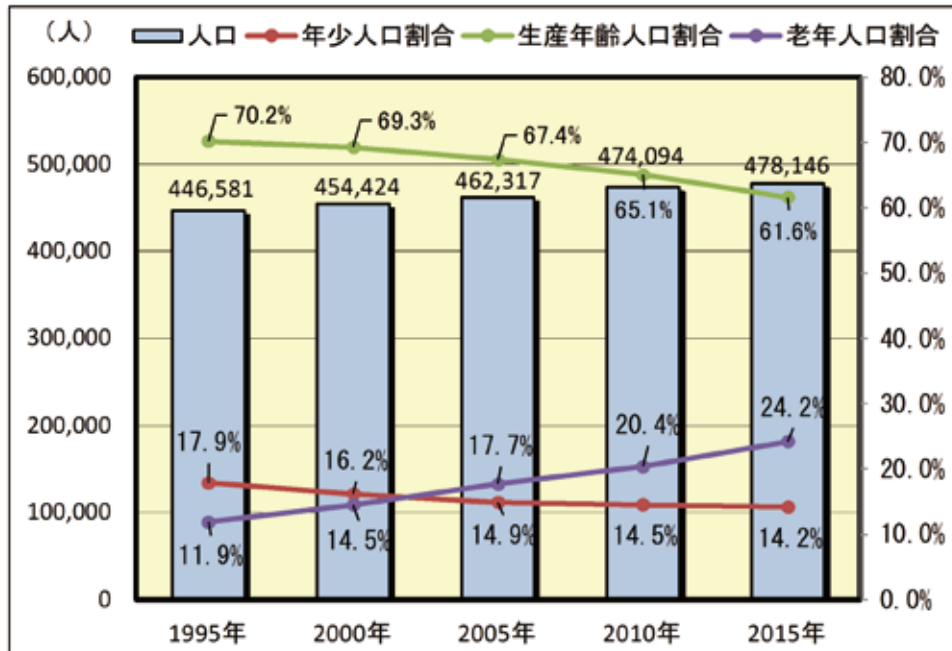
(5)人口

2015年（平成27年）の国勢調査によると、大分市の人口は478,146人となっています。

人口の年齢構成については、年少人口割合、生産年齢人口割合が減少し、老年人口割合が増加し、少子高齢化がすすんでいます。

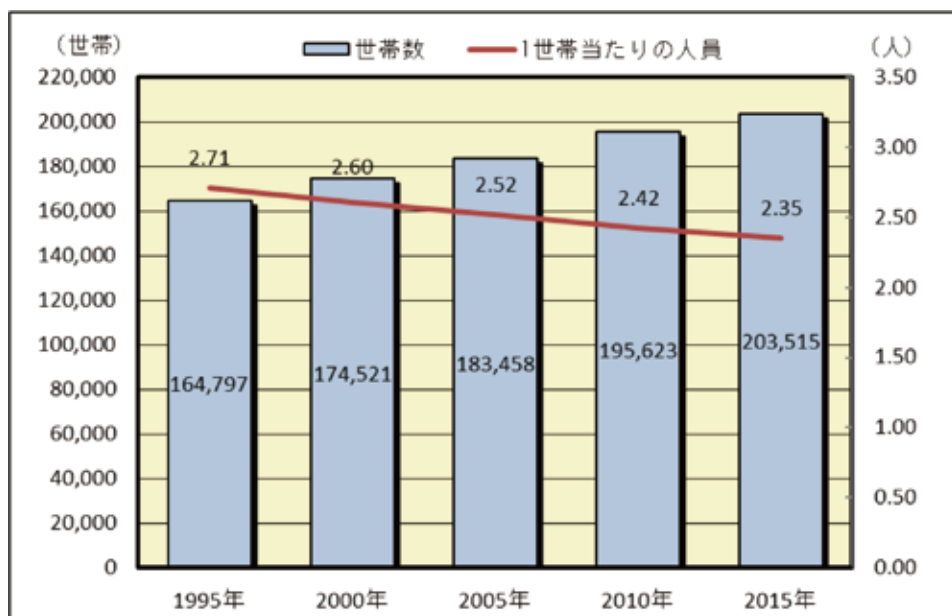
世帯数は増加しており、2015年（平成27年）で203,515世帯に達しています。一方、一世帯当たりの人員は1995年（平成7年）の2.71人から、2015年（平成27年）には2.35人と減少しており、年々減少傾向となっています。

総人口の推移



(資料：国勢調査)

世帯数と1世帯当たり人員の推移



(資料：国勢調査)

※1995年及び2000年については、大分市（当時）の数値に野津原町（当時）と佐賀関町（当時）の数値を合算して表示しています。

2

大分市の緑の概況

(1) 大分市の緑の概況

大分市では、高崎山、霊山、九六位山などの一連の山々が市街地を取り囲み、市街地の外側から丘陵地にかけての河川沿いに水田や畑が広がっています。

縦木山（佐賀関地域）から鎧ヶ岳（野津原地域）にかけての市南部の山地、丘陵地ではスギーヒノキ林、クヌギーコナラ林などの植栽林が大半を占めていますが、柞原八幡宮、西寒多神社などでは、コジイやイチイガシが優占する社寺林がみられるほか、本宮山山頂にもアカガシ林が分布するなど比較的自然林の状態が残されているところもあります。

一方、市街地内の緑としては、都市公園や河川、教育施設などの公共の緑地や社寺境内地などの民間の緑地があります。

(2) 緑地の現況

大分市における都市計画区域全体での緑地の現況量は、25,367.9haと都市計画区域の68.1%を占めています。市街化区域の緑地率は9.2%と、山地や丘陵地などが多く占める市街化調整区域の緑地率94.9%に比べて非常に少ないことが特徴です。

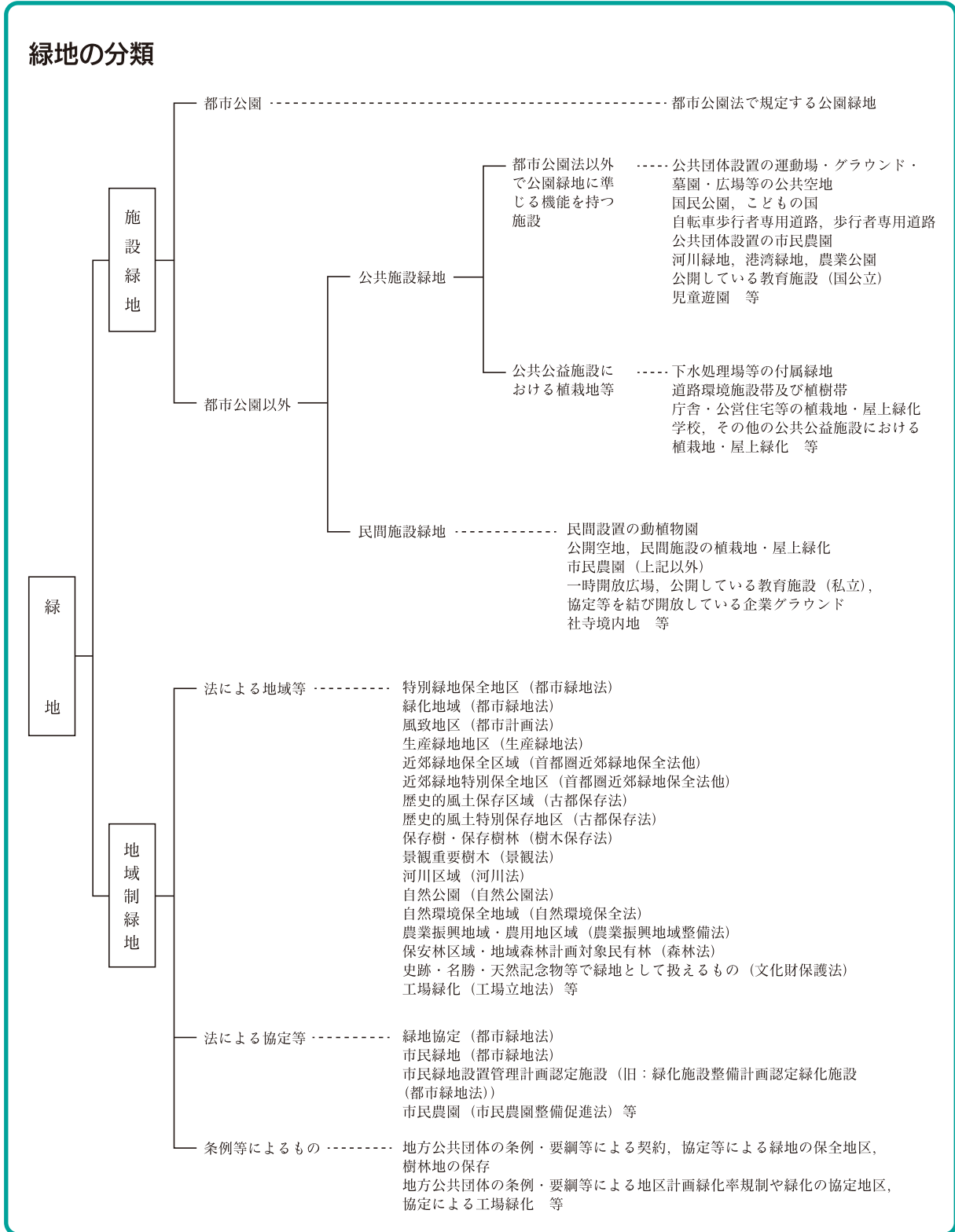
市街化区域では、都市公園整備などにより、緑地率は2008年（平成20年）8.6%から2017年（平成29年）9.2%に増加しました。

緑地の現況量（都市計画区域）

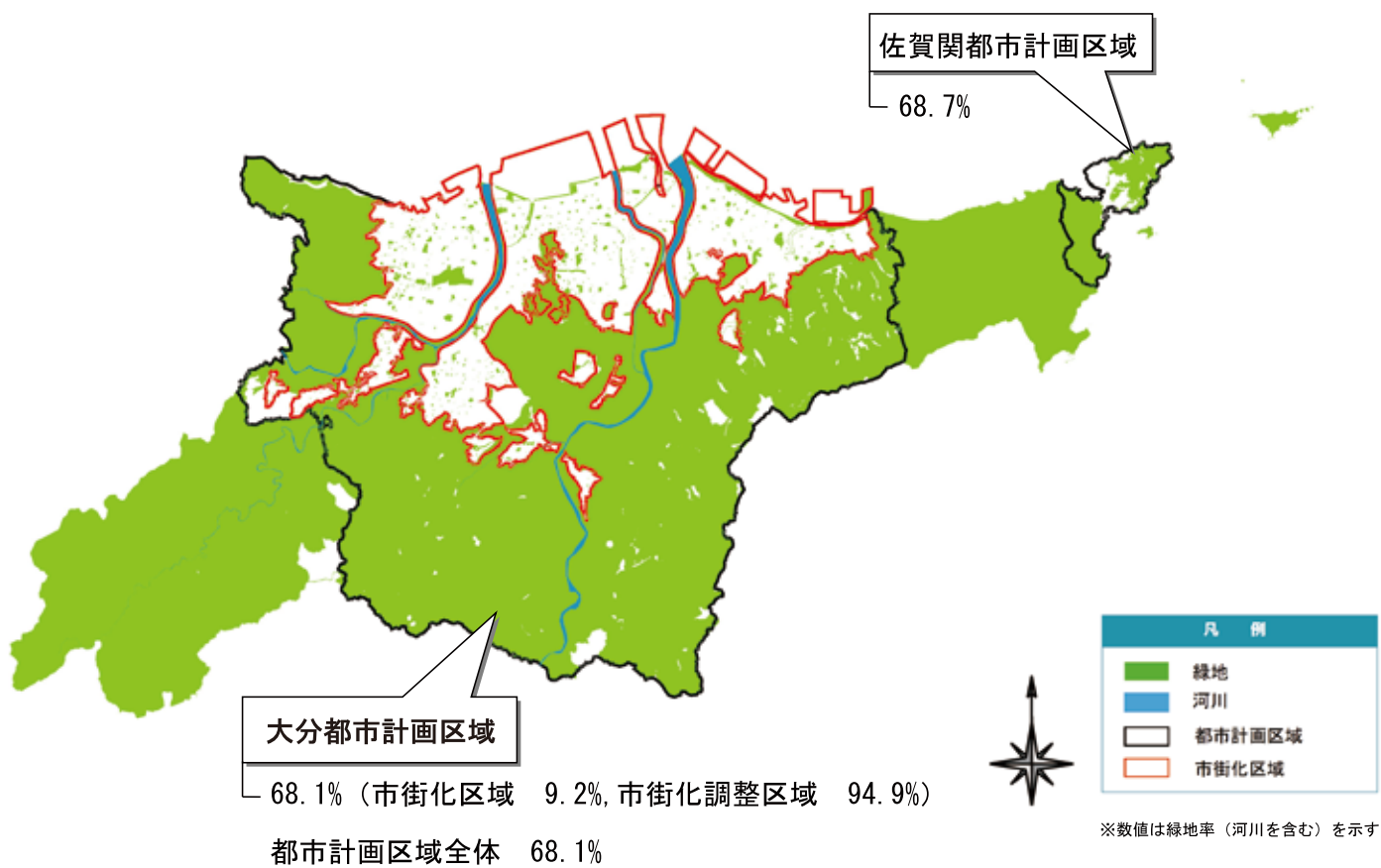
	現況(2008年(平成20年))			現況(2017年(平成29年))		
	区域面積 (ha)	緑地面積 (ha)	緑地率 (%)	区域面積 (ha)	緑地面積 (ha)	緑地率 (%)
都市計画区域全体	37,254	25,419.5	68.2	37,254	25,367.9	68.1
大分都市計画区域	36,105	24,632.9	68.2	36,105	24,578.6	68.1
市街化区域	11,249	969.1	8.6	11,294	1,033.6	9.2
市街化調整区域	24,856	23,663.8	95.2	24,811	23,545.0	94.9
佐賀関都市計画区域	1,149	786.6	68.5	1,149	789.4	68.7

「緑地」は、大きく公共施設などとして管理される施設緑地と、土地利用上で確保される地域制緑地の2つに分けられます。施設緑地には都市公園や学校といった公共施設緑地や民間施設緑地があります。地域制緑地には自然公園や保安林、農業振興地域などの法によるものや、協定、条例などによるものがあり、次のように分類されます。

緑地率は、これらの緑地が特定の区域に占める割合です。



緑地の現況図



(3) 貴重な動植物

1) 植物

市内には、「柞原八幡宮のクス」をはじめとする天然記念物の指定を受けた貴重な植物（群）が、5件あります。環境省の自然環境保全基礎調査による特定植物群落（※）としては、柞原八幡宮の自然林、河岸断がいのアラカシ林などが指定されています。

また、市の名木保存条例によって15の樹林が指定されており、この内5つの樹林は、大分県環境緑化条例に基づく特別保護樹林にも指定されています。



西寒多神社のヤマフジ

市内の天然記念物(植物)

指定区分	名称	所在地	指定年月日	所有者
国	柞原八幡宮のクス	八幡	T11.3.8	柞原八幡宮
県	高島のヒロウ自生地	高島	S30.5.27	大分県
市	ヤマフジ	寒田	S49.1.9	西寒多神社
市	クスノキ	下戸次	S49.1.9	八幡神社
市	柞原八幡宮の森	八幡	H2.9.12	柞原八幡宮

特定植物群落(※)

No.	件名	選定基準
1	河岸断がいのアラカシ林	郷土景観
2	霊山のコジイ林	自然林、郷土景観
3	柞原八幡宮の自然林	自然林
4	高島のスダジイ林	自然林、分布限界
5	日豊海岸のがけ斜面低木林	郷土景観

(資料：環境省 第5回自然環境保全基礎調査(2000年(平成12年)))

※特定植物群落：環境省が行った「自然環境保全基礎調査」において全国の多様な植物群落の中から選定した地域の代表的、典型的、希少な植物群落である。

大分市に分布する重要群落(※)

	群集・群落	分布地点
1	ミミズバイースタジイ群集	柞原八幡、西寒多神社、上野丘、高瀬、下八幡、八丸神社
2	ムサシアブミータブノキ群集	雄城、高島
3	イノデータブノキ群集	勢家春日神社
4	シイモチーシリブカガシ群集	木田東部日吉神社、九六位山、中判田立小野、霊山寺、安藤、宮尾神社、野田中ノ原、森、十谷三方神社、太田諏訪神社
5	ホソバカナワラビースタジイ群集	高島
6	ツクバネガシーシラカシ群集	高崎山、野津原下次郎
7	ミヤマシキミーアカガシ群集	本宮山本宮神社、樅木山東尾根
8	ムクノキーエノキ群集	乙津川中島、天面山南麓
9	アブラチャンーホソバタブ群集	野津原下次郎、野津原栗灰
10	オニヤブソテツーハマビワ群集	佐賀関関崎
11	ナメノキーアラカシ群集	佐賀関田之浦
12	カゴノキ群落	轟稻荷社
13	ウバメガシ群落	小黒神明社
14	海浜・海崖植生	高島
15	湿地・溪流辺植生	丹川赤迫池、野津原栗灰
16	塩沼地植生	乙津川海原

(資料：大分市の植生(2008年(平成20年)8月))

※重要群落：「大分市の植生」において選定された、植生の自然度が高い自然植生、半自然植生であり、また学術上貴重かつ自然資源として価値が高い植物群落である。

大分市名木保存条例指定樹林

	樹林名	樹林面積(m ²)	指定年月日	所在地・所有者
①	春日神社の森※	15,600	S49. 2. 1	勢家町・春日神社
②	西寒多神社の森※	12,000	S49. 2. 1	大字寒田・西寒多神社
③	日吉神社の森※	6,650	S49. 2. 1	大字木田・日吉神社
④	小野鶴神社の森※	5,400	S49. 2. 1	大字小野鶴・小野鶴神社
⑤	雄城神社の森	840	S49. 2. 1	大字玉沢・雄城神社
⑥	国分寺の森	2,340	S49. 2. 1	大字国分・国分寺
⑦	丹生神社の森	3,000	S49. 2. 1	大字佐野・丹生神社
⑧	高尾神社の森	3,000	S49. 2. 1	大字宮尾・高尾神社
⑨	鷹松神社の森※	2,100	S49. 2. 1	高松東・鷹松神社
⑩	熊野神社の森	600	S49. 2. 1	大字一木・熊野神社
⑪	本宮神社の森	4,410	S60. 5.24	大字上判田・本宮神社
⑫	浜の潜在樹林	690	H 6. 4.25	大字浜・個人
⑬	岩田学園の樹林	7,700	H15. 7.22	岩田学園
⑭	高岩神社の森	4,768	H17.11. 8	大字今市・高岩神社
⑮	鶴崎大神宮の森	1,300	H27. 3.16	東鶴崎
	計	70,398		

※大分県環境緑化条例に基づき特別保護樹林に指定されたもの

大分市自然環境調査であげられている優れた自然環境(保全すべき植生)

番号	分布地点
1	柞原八幡宮のクス並びに境内林
2	高崎山ニホンザル生息地の森林
3	霊山の森
4	本宮神社の森
5	西寒多神社のイチイガシの群集
6	春日神社の境内林
7	護国神社の森
8	松岡・横尾台地一帯の森林
9	大在海岸の植物群落
10	乙津川塩性湿地の植物群落
11	天面山の山腹に残存するコナラ・カゴノキ群落
12	天面山の山腹や尾根に残存するアカマツ・ヤマツツジ群落
13	天面山の山腹に残存するシイモチーシリブカガシ群集
14	九六位山のウラジロガシ・サカキ群集・イスノキ亜群集
15	日吉神社の森
16	国分寺の森
17	高尾神社の森
18	熊野神社の森
19	宇曾嶽神社の森
20	上野丘公園の森
21	高島のビロウ自生地
22	高島の海岸植物群落と自然林
23	佐賀関半島北東部の自然林
24	佐賀関半島南岸急崖地の自然林
25	佐賀関半島城山森林公園の自然林
26	佐賀関半島大志生木三方大荒神のオガタマノキとコジイ群落
27	佐賀関半島本神崎地区・海岸防風林のハマビワ群落と砂浜植物群落
28	佐賀関半島木佐上地区・轟神社のイチイガシの大木と轟地区の丘陵地残存林
29	佐賀関半島本神崎地区・築山古墳の残存林
30	野津原地区石合・高岩神社のトチノキの巨樹と背後地のウラジロガシ群落

(資料：大分市自然環境調査報告書 2007年(平成19年)2月)

2) 動物

動物に関する天然記念物の指定としては、国指定の「高崎山のサル生息地」と、県指定の「高島のウミネコ営巣地」、市指定の「オオイタサンショウウオ及び生息地」、の3件があり、このうちオオイタサンショウウオについては、環境省のレッドデータブックの絶滅危惧Ⅱ類（絶滅の危険が増している種）に選定されています。

市内の天然記念物(動物)

指定区分	名称	所在地	指定年月日	所有者
国	高崎山のサル生息地	神崎	S28.11.14	大分市他
県	高島のウミネコ営巣地	高島	S30. 5.27	大分県
市	オオイタサンショウウオ及び生息地	岡川	S49. 1. 9	霊山寺

大分市自然環境調査であげられている保全すべき主な動物

種別	保全すべき対象（種・亜種等）
哺乳類	サイゴクジネズミ、キクガシラコウモリ、コキクガシラコウモリ、ユビナガコウモリ、キュウシュウムササビ、ニホンザル
鳥類	クマタカ、ツクシガモ、ウズラ、ヨタカ、オオタカ、ブッポウソウ、アオバズク、メジロ、サギ科、カワガラス 等
爬虫類	アカウミガメ、スッポン、タカチホヘビ、シロマダラ、ヒバカリ
両生類	オオイタサンショウウオ、ニホンヒキガエル、トノサマガエル、アカハライモリ、ツチガエル 等
昆虫類	ルイスハンミョウ、オオツノハネカクシ、オオシモフリスズメ、アイヌコブスジコガネ、コシロシタバ エリザハンミョウ、オツネトンボ、オグマサナエ、ミカドアゲハ、ムカシヤンマ、ギンイチモンジセセリ 等

(資料：大分市自然環境調査報告書(2017年(平成29年)3月))



高崎山のニホンザル



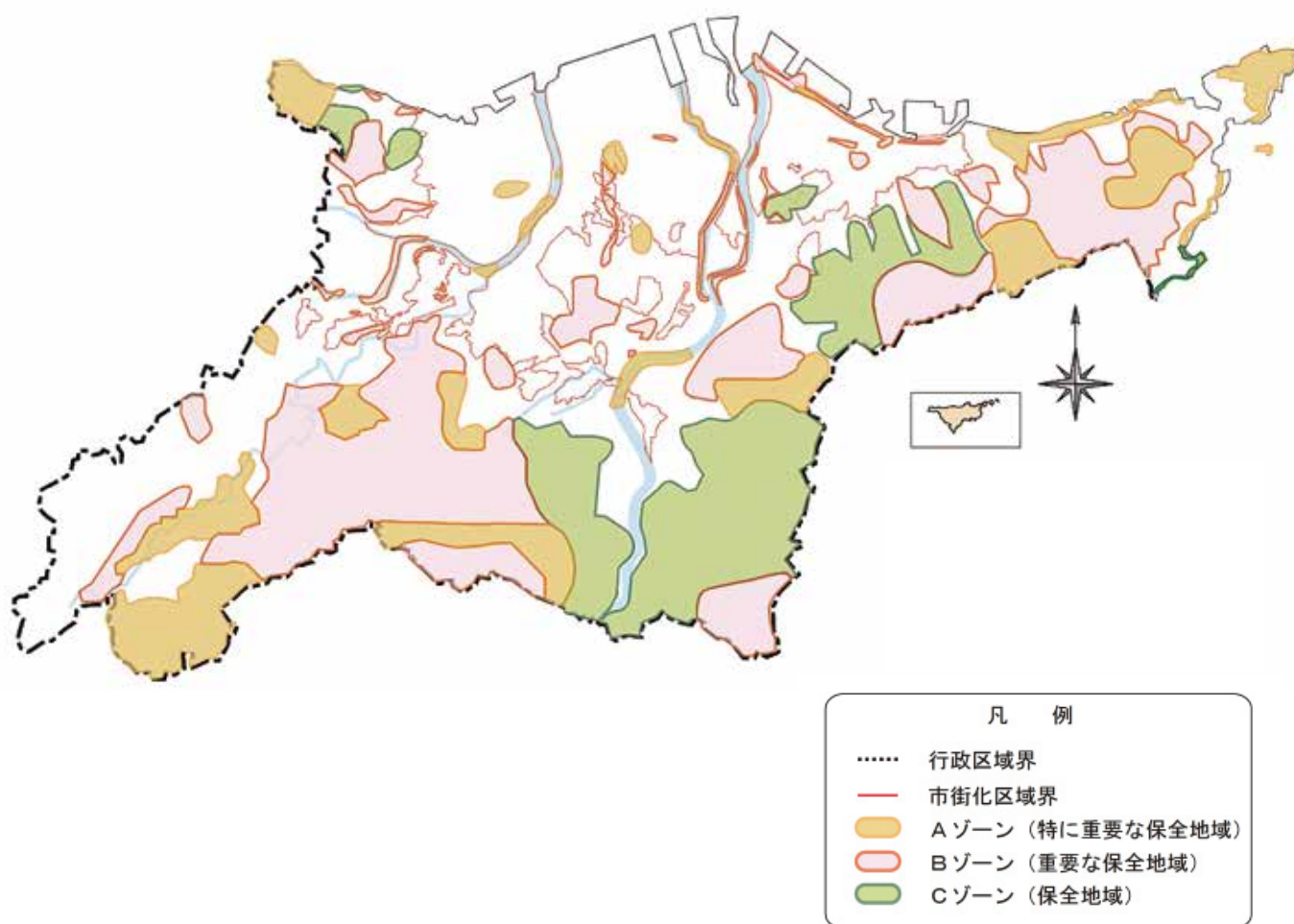
高島のウミネコ

3) 自然環境の評価

大分市自然環境調査報告書（2007年（平成19年）2月）では、大分市内の自然環境について、調査対象分野別の調査結果から大分市の自然環境を総合評価して、一体的に保全すべき区域のゾーニングを行っています。ゾーニングは、価値区分に応じて、A, B, Cゾーンに分類しています。

Aゾーンは、高崎山山頂付近をはじめとする樹林地や、大野川、大分川の中、下流域、乙津川河口部などに設定されています。また、Bゾーン、Cゾーンは大分南部、佐賀関周辺に広がっています。

保存すべき区域のゾーニング



資料：大分市自然環境調査報告書（2007年（平成19年）2月）

4) 生物多様性の確保に関する取り組み

生物多様性を確保することにより、多くの生物や生息環境が健全な状態で保全されます。環境省では大分市について以下の取り組みを行っています。

①重要湿地500

「日本の重要湿地500」は、生物多様性の観点から重要な湿地を保全することを目的に500ヶ所選定されています。保護区の設定や開発案件における保全上の配慮を促す基礎資料として活用され、重要な湿地の保全を推進する役割を果たしてきました。大分市では、1ヶ所の重要湿地が選定されています。

大分市の重要湿地箇所

生息・生育域	生物分類群	選定理由
松岡および敷戸のため池群	ガンカモ類	オシドリの渡来地

(資料：環境省(2015年(平成27年)3月))

選定基準「特定の種の個体群のうち、相当な割合の個体数が生育・生息する」に該当する。

②モニタリングサイト1000

日本の様々な生態系の動向を把握するため、環境省が設置した、基礎的な環境情報を長年に継続して収集する場所です。多様な生態系に応じて全国1000ヶ所程度が設置されており、大分市には、6ヶ所のモニタリングサイト(※)があります。

大分市モニタリングサイト設置箇所

生態系	調査名称	タイプ	サイト名	緯度	経度
森林・草原	陸生鳥類調査	一般サイト(※)	乙津川河口	33.2	131.6
森林・草原	陸生鳥類調査	一般サイト	高尾山自然公園	33.2	131.6
森林・草原	陸生鳥類調査	一般サイト	野津原 県民の森	33.3	131.5
里地・里山	里地調査	一般サイト	下判田の里山	33.1	131.6
里地・里山	里地調査	一般サイト	こうざき自然海浜公園	33.2	131.7
湖沼・湿原	ガンカモ類調査	—	松岡・敷戸の溜池群	33.18	131.61

(資料：環境省(2018年(平成30年)3月))

※モニタリングサイト：日本の様々な生態系の動向を把握するため、基礎的な環境情報を収集する場所。

※一般サイト：市民が調査主体となって、自ら選択した一部の調査項目についてボランティアで調査を実施するサイトです。一般サイトは5年間を一区切りとして更新しています。ガンカモ類調査は、市民調査員が主体となった調査を行います。

(4) 都市公園の整備現況

大分市の都市公園の整備現況は下の表のとおりです。都市公園は、2008年（平成20年）公園数676箇所、公園面積675.8haから、2018年（平成30年）には公園数756箇所、公園面積703.4haへと増加しました。また、都市計画区域における一人あたりの都市公園面積は14.8㎡から15.0㎡（※）に増加しています。

都市公園の整備現況

公園種別		(2008年(平成20年))		整備現況(2018年(平成30年))	
		箇所数	面積(ha)	箇所数	面積(ha)
住区基幹公園	街区公園	489	98.7	554	106.3
	近隣公園	19	36.1	24	43.2
	地区公園	4	20.5	4	20.6
	計	512	155.3	582	170.1
都市基幹公園	総合公園	6	54.1	7	67.5
	運動公園	3	29.0	3	29.0
	計	9	83.1	10	96.5
特殊公園		7	27.4	6	16.3
墓地・墓園		1	9.3	1	9.2
大規模基幹公園（広域公園）		2	167.8	2	167.9
緑地・緑道		144	231.8	154	242.3
広場公園		1	1.1	1	1.1
その他		—	—	—	—
都市公園計		676	675.8	756	703.4

※公園は2018（H30）3.31現在のデータによる

※人口は「2018年（平成30年度）版大分市の都市計画現況（2018年（平成30年）3月31日現在）」による

468,590人（都市計画区域内人口を対象）

※703.4ha÷468,590人≒15.0㎡/人

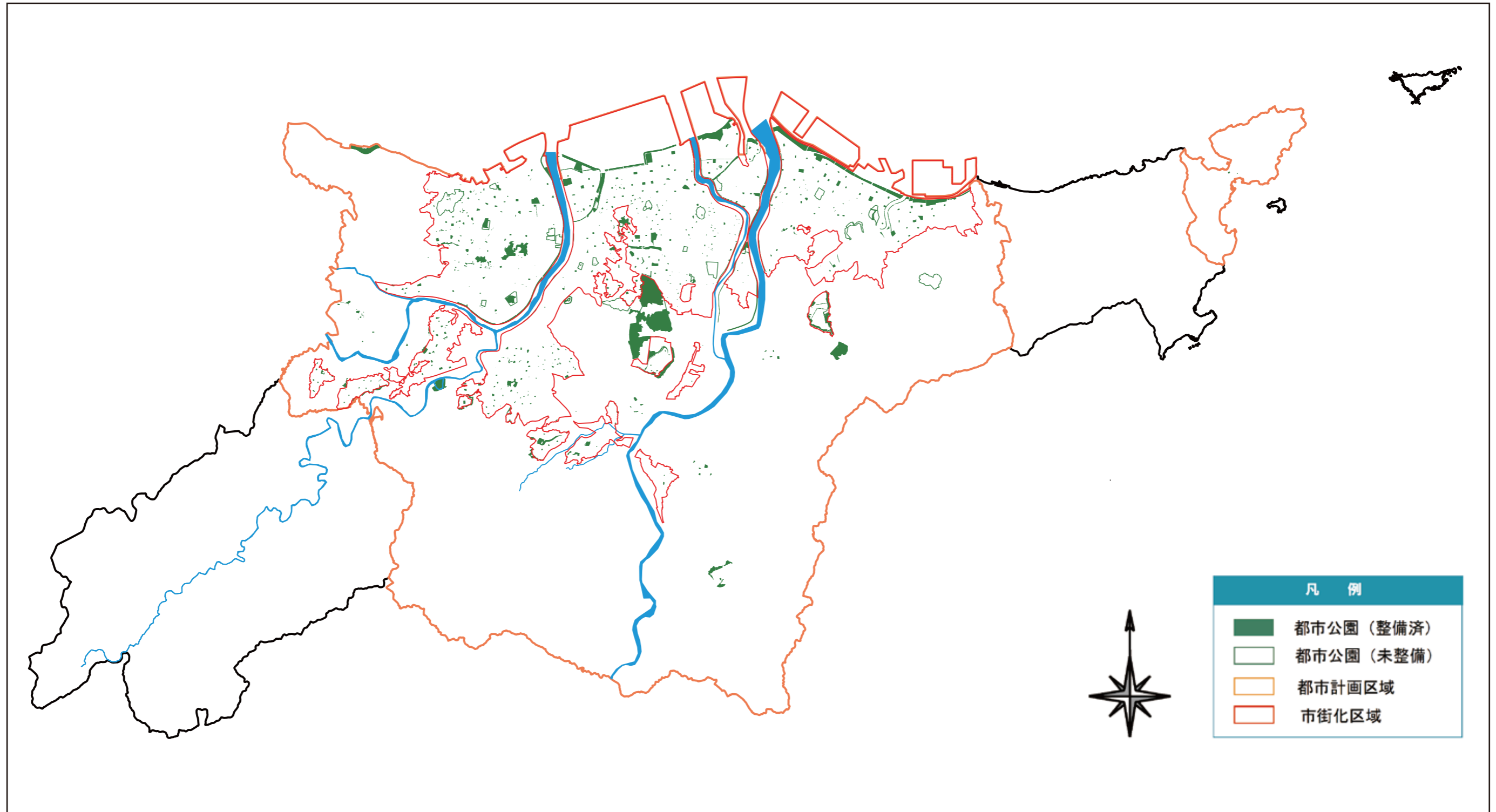


近隣公園（浜中公園）



総合公園（田ノ浦ビーチ）

都市公園の整備状況図



※2018年(平成30年)3月現在(本調査による)

(5) 緑で覆われた土地の現況

1) 大分市全体の緑で覆われた土地の現況

大分市の緑で覆われた土地の現況を把握するため、航空写真とメッシュ（25m×25m）を重ね、目視により、緑で覆われた土地が過半を占めるメッシュを「緑被メッシュ」とし、「緑被メッシュ」の割合を算出することにより緑被率（※）を求めました。

大分市全体での緑被率は約72.9%となっています。大分地区では37.6%と低く、その内市街化区域についてはわずか21.1%となっています。

2017年（平成29年）の緑被率は、2008年（平成20年）と比較すると、全体的に減少しています。

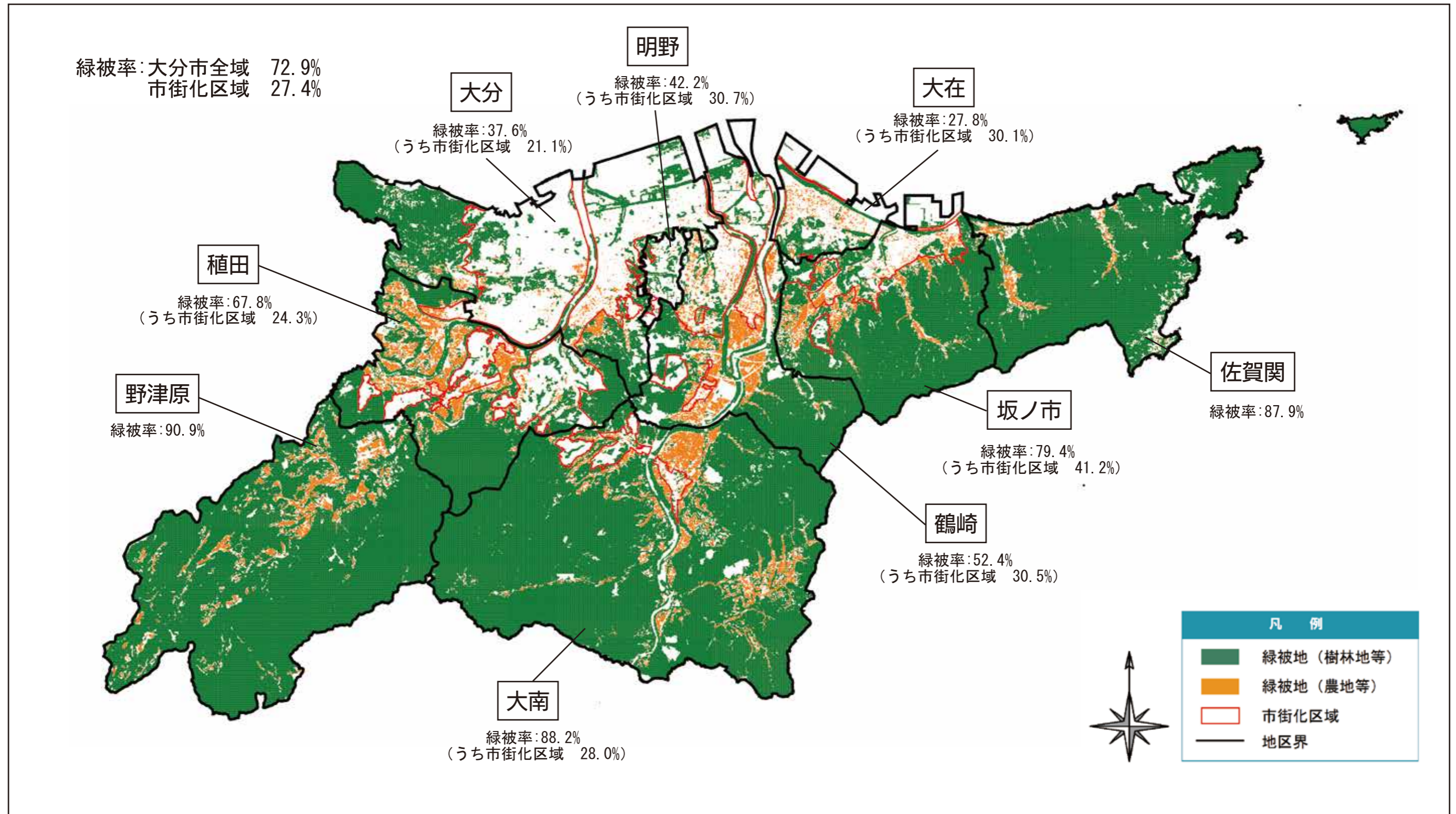
大分市の地区別緑被現況

	(2008年(平成20年))	現況(2016年(平成28年))		
	緑被率	区域面積(ha)	緑被面積(ha)	緑被率
大分地区	38.5%	7,054	2,652	37.6%
うち市街化区域	22.3%	4,247	896	21.1%
明野地区	44.9%	372	157	42.2%
うち市街化区域	33.3%	368	113	30.7%
鶴崎地区	53.8%	5,424	2,842	52.4%
うち市街化区域	32.3%	2,190	669	30.5%
大南地区	88.5%	12,117	10,685	88.2%
うち市街化区域	35.3%	432	121	28.0%
植田地区	69.0%	4,932	3,346	67.8%
うち市街化区域	28.2%	1,503	365	24.3%
坂ノ市地区	81.3%	4,907	3,895	79.4%
うち市街化区域	46.6%	1,428	589	41.2%
大在地区	28.9%	1,299	361	27.8%
うち市街化区域	31.5%	1,126	339	30.1%
大分都市計画区域	67.3%	36,105	23,938	66.3%
市街化区域	29.9%	11,294	3,092	27.4%
佐賀関地区	88.9%	4,990	4,386	87.9%
うち佐賀関都市計画区域	—	1,149	865	75.3%
うち本神崎準都市計画区域	—	95	65	68.4%
うちその他の区域	—	3,746	3,456	92.3%
野津原地区	91.9%	9,144	8,311	90.9%
大分市全域	73.9%	50,239	36,635	72.9%
市街化区域	29.9%	11,294	3,092	27.4%

※緑被率：植物の緑で被覆された土地、もしくは自然環境の状態（水面含む）にある土地の割合

※本計測では、農地を含み河川の水面を対象外としている。

緑で被われた土地の現況図



2) 公共公益施設の緑で被われた土地の現況

公共公益施設の緑で被われた土地の現況については、公共公益施設の区域における樹木、芝生、草地などの区域を航空写真から確認し、その面積の割合を算出することにより、緑被率（※）を求めました。

平均緑被率は都市公園の内、街区、運動公園で29.1%、近隣、地区、総合公園などで65.6%、幅員16m以上の幹線道路で34.6%、市の教育施設で11.6%、その他の市の公共公益施設が19.6%です。

緑被率は、2008年（平成20年）から2017年（平成29年）にかけて教育施設を除いて増加しました。

公共公益施設の緑被の現況

区 分	平均緑被率(%)		備 考
	(2008年(平成20年))	現況 (2017年(平成29年))	
都市公園	29.0%	29.1%	街区、運動公園
	62.7%	65.6%	近隣、地区、総合、特殊、広域、緑地、緑道、墓園
幹線道路	32.2%	34.6%	幅員16m以上の国、県道及び市道
市の教育施設	13.2%	11.6%	大分市教育委員会で管理する教育施設
その他の市の 公共公益施設	17.8%	19.6%	市役所、支所、消防署、保健所、公民館、 文化施設、医療福祉施設、保育所、処理場、 浄水場、斎場、調理場

※2017年(平成29年)4月現在(本調査による)

※幹線道路については、緑化延長/総延長

※緑被率：植物の緑で被覆された土地、もしくは自然的環境の状態（水面含む）にある土地の割合。幹線道路は、街路樹がある区間延長の幹線道路総延長に対する割合。



遊歩公園



公共施設の屋上緑化(ホルトホール)

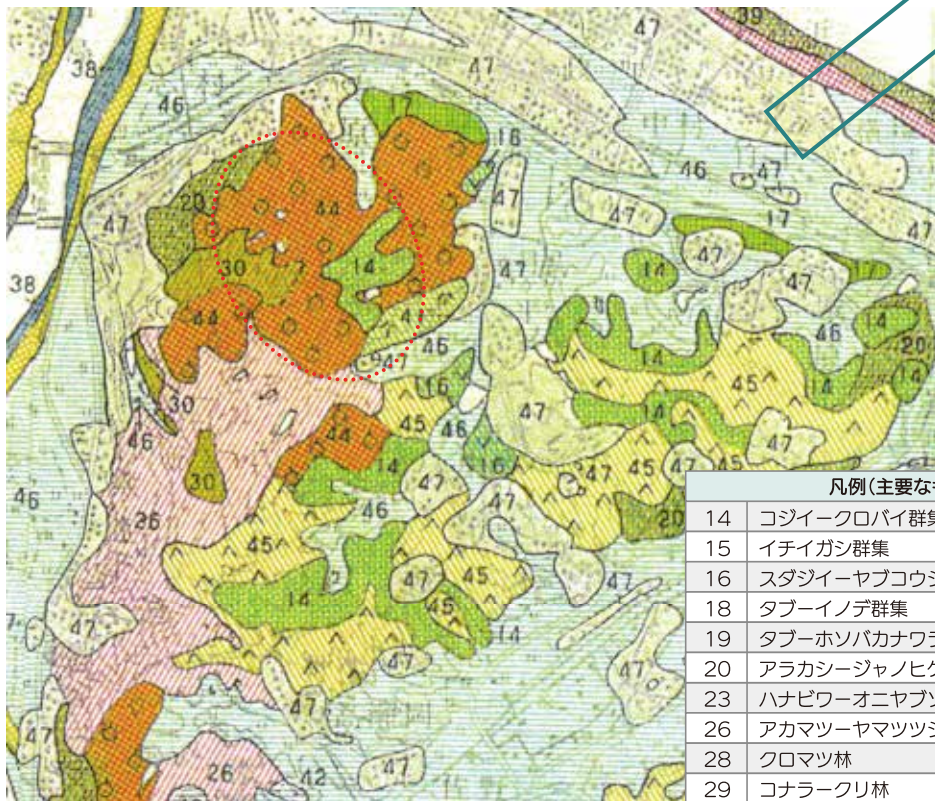
(6) 緑の変遷

緑の変遷について角子原周辺を例として比較を行いました。

市街地に近い角子原周辺の植生は、1972年（昭和47年）当時、果樹園等が広がる丘陵地となっていました。その後、1996年（平成8年）にはクヌギコナラ群集へと変わっていききました。さらに2008年（平成20年）には、これらの植生も住宅団地や工業団地の開発等によって人工的な土地利用へと変化しているところが多くみられるようになっていきます。

岡地区工業団地では、地区計画によって工業団地周辺に現存する樹林地、草地等の保全を図っていますが、市街地に近い丘陵地などの緑は、人の生活の影響を受けやすい環境にあるといえます。

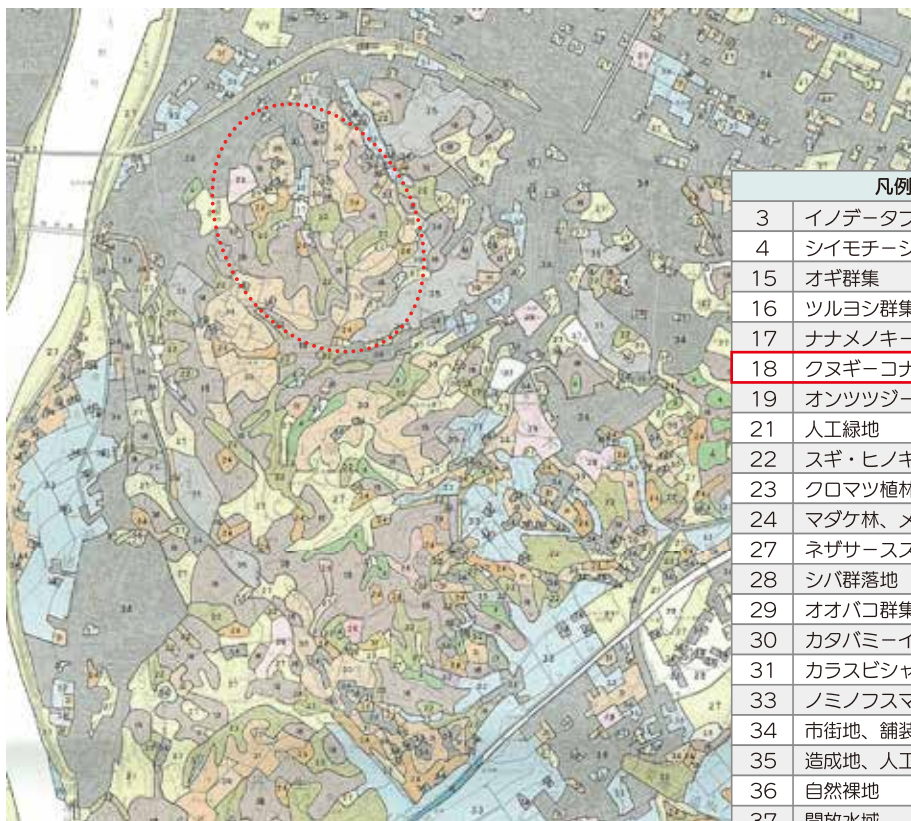
1972年(昭和47年)の植生(角子原周辺)



凡例(主要なもの)

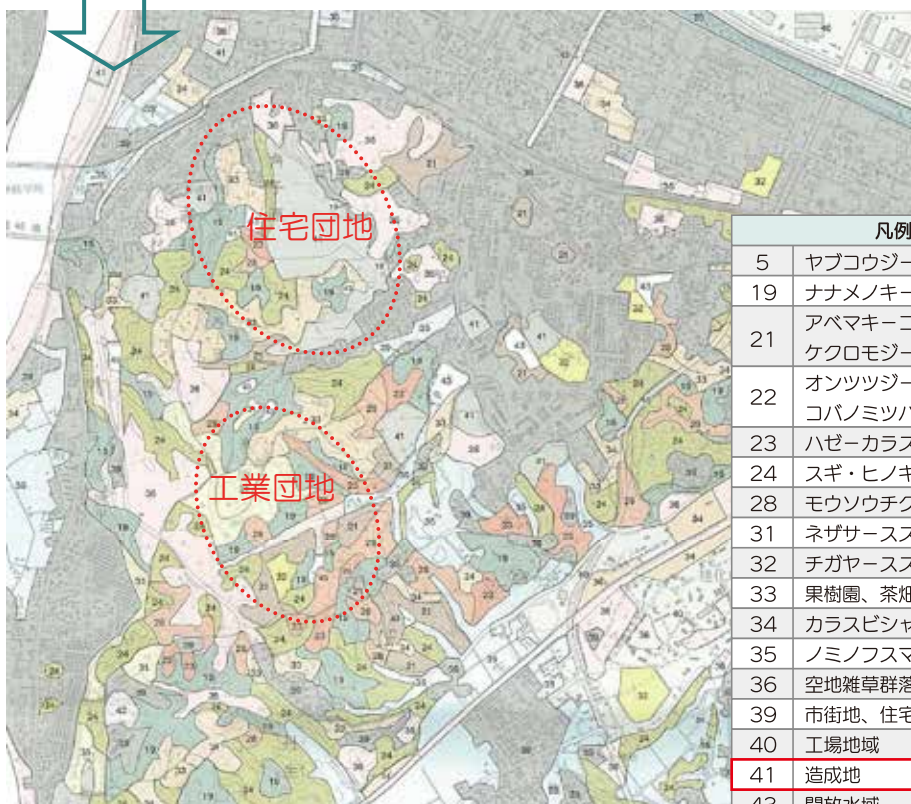
14	コジークロバイ群集
15	イチイガシ群集
16	スタジューヤブコウジ群集
18	タブーイノデ群集
19	タブーホソバカナワラビ群集
20	アラカシージャノヒゲ群集
23	ハナビワオニヤブソテツ群集
26	アカマツヤマツツジ群集
28	クロマツ林
29	コナラクリ林
30	クヌギ林
33	ススキトダシバ群集
36	ススキ草原にスギ、ヒノキ植林
38	ヨシースグ湿原
39	コウボウムギ砂丘植生
40	ハマサジ群集
41	竹林
42	針葉樹植林(スギ、ヒノキ)
44	果樹園
45	畑
46	水田
47	市街地
48	無植生地

1996年(平成8年)の植生(角子原周辺)



凡例(主要なもの)	
3	イノデータブノキ群集
4	シイモチーシリブカガシ群集
15	オギ群集
16	ツルヨシ群集
17	ナナメノキーアラカシ群集
18	クスギーコナラ群集
19	オンツツジーアカマツ群集
21	人工緑地
22	スギ・ヒノキ植林
23	クロマツ植林
24	マダケ林、マダケ群落地
27	ネザサーススキ群落地
28	シバ群落地
29	オオバコ群落地
30	カタバミーヌホオツキ群集他
31	カラスビシャクーニシキソウ群集
33	ノミノフスマーケイツネノボタン群集他
34	市街地、舗装道路住宅地
35	造成地、人工裸地
36	自然裸地
37	開放水域

2008年(平成20年)の植生(角子原周辺)



凡例(主要なもの)	
5	ヤブコウジースダシイ群集
19	ナナメノキーアラカシ群集
21	アベマキーコナラ群集 ケクロモジーコナラ群集 など
22	オンツツジーアカマツ群集 コバノミツバツツジーアカマツ群集 など
23	ハゼーカラスザンショウ群集
24	スギ・ヒノキ植林
28	モウソウチク林、マダケ林
31	ネザサーススキ群集
32	チガヤーススキ群落
33	果樹園、茶畑、メガルカヤーススキ群落
34	カラスビシャクーニシキソウ群集
35	ノミノフスマーケイツネノボタン群集
36	空地雑草群落
39	市街地、住宅地
40	工場地域
41	造成地
43	開放水域

3

市民の緑に対する意識調査

市民が「緑」に対して感じていることを調査し、今後の緑地保全、緑化推進、公園整備等をどのように進めていくべきかを検討するため、アンケート調査を実施しました。調査概要を以下に示します。

■調査地域	: 大分市内全域
■調査対象者	: 大分市在住の15歳以上の人(男女比1:1。外国人を含む)
■配布・回収方法	: 郵送による調査票の配布・回収
■調査期間	: 2018年(平成30年)4月27日(金)発送、2018年(平成30年)5月31日(木)締切
■配布数	: 4,000通
■有効回答率	: 1,496通 (37.4%)

■調査結果の概要

(大分市の緑の現状について)

[大分市の緑] 山などの自然の緑や公園、水辺が特徴となっており、緑が多いと評価されています。しかし、落ち葉、樹木の剪定など身近な緑の維持管理について問題となっています。

(大分市の公園について)

[公園の利用] 多くの方が普段から公園を利用しています。小規模な公園を毎日利用している人の割合は、年齢が高くなるほど増える傾向にあります。また、公園は、休憩・散策、子供との遊びをはじめ、様々な目的に利用されています。

[今後の公園整備] 「数は増やさなくてよいが、きれいで使いやすい公園に改修していく」とする意見が最も多くありました。一方で、小規模な公園を増やしてほしいとの意見等もありました。

[今後、公園でしたいこと・設置してほしい施設] 多岐にわたっており、公園に対する様々なニーズがあります。大規模な公園については、カフェやレストランなどの飲食施設、コンビニ等の売店を整備していくことが望ましいとする意見が多くありました。

[公園の運営・管理] 小規模な公園では、「市と地域住民（ボランティア等）が協力して管理する」という回答が最も多くありました。

(大分市の緑の将来像について)

- [緑の保全] 「積極的に行い、緑を増やしていく」とする意見が前回(2008年(平成20年))調査から減少し、「積極的に行っていくが、現状を下回らない程度でよい」とする意見が半数以上を占めました。
- [森林について] 「生物の貴重な生息場所として大切に保全する」、「緑を守りつつレクリエーションなどの場として活用できるようにする」等の意見がありました。
- [街路樹について] 「定期的な植え替えを行い、美しい街路樹景観を維持する」とする方が最も多く、街路樹を増やしていくとする意見は、前回調査よりも減少しました。
- [市街地の緑化について] 「維持管理を適切に行い保全する」とする回答が最も多いが、道路や公園、公共施設、民有地の緑化も求められています。
- [特に守り育てる必要がある緑] 貴重な動植物の生息生育する緑、公園、河川・海岸、社寺仏閣、自然林等の緑について、特に守り育てる必要があるとする意見がありました。
- [生物多様性の確保に関して] 「森林や河川などの自然環境の保全」や「里地里山環境の保全」、「外来生物による生態系への影響の防止」といった取り組みが求められています。

(大分市の緑を増やしていくための推進体制や緑の管理について)

- [緑化推進] 行政主導で進めていくよりも、「行政と市民が役割分担をして協力して進めていく」との意見が多くありました。
- [緑との関わり] 現在やっていること、これからやっていきたいことは、「自宅で草花の植付け等のガーデニング」とする回答が最も多くありました。また、地域の花づくりなどの緑化活動、森林の保全活動、公園や街路樹の清掃、河川的环境保全活動への参加に多くの人々が関心を持っています。



大分駅南側と大分いこいの道

